



益富地区

まちづくり計画

基本計画

『みんなの心がつながるまち・ますとみ』



令和6年3月

計画策定：益富地区まちづくり推進協議会
発行：豊田市 地域振興部 高橋支所

益富地区まちづくり計画 基本計画

－ 目 次 －

第1章 益富地区まちづくり計画について	1
1-1 計画策定に至った経緯	1
1-2 計画の位置づけ	2
第2章 益富地区の概況	3
2-1 地区の特性(現在のまちの姿)	3
2-2 将来予測	13
2-3 将来への不安と期待	16
第3章 まちの将来像	18
3-1 まちの将来像(私たちが目指すまちの姿)	18
3-2 計画の体系(まちづくりの目標と方針)	19
第4章 まちづくりの目標と活動方針	20
【目標1】 交流・ふれあい 様々な垣根を越えた交流、人と人とのふれあいがあり、 みんなが仲良く暮らせる益富に！	20
【目標2】 生涯活躍、安心・安全 だれもが健康で元気に活躍でき、 安心・安全に暮らすことのできる益富に！	21
【目標3】 若い世代・活力 若い世代にも魅力ある暮らしを育み、 楽しく活力ある益富に！	22
【目標4】 伝統・文化、自然環境 地域の伝統・文化、自然環境を理解し、 その価値を後世に伝え継ぐ益富に！	23
資料編	
資料1 益富地区まちづくり計画 基本計画策定の経過	24
資料2 益富地区まちづくり計画策定に向けたワークショップ(開催概要)	26
資料3 益富地区まちづくり計画策定に向けたワークショップ 参加者名簿	32
資料4 益富地区まちづくり推進協議会 委員名簿	33

第1章 益富地区まちづくり計画について



1-1 計画策定に至った経緯

今、私たちが暮らしている益富地区は、高度経済成長期の人口急増に伴い昭和59年(1984年)に開校した益富中学校の校区を単位としたコミュニティ(人や団体のつながり)です。

古くからの住宅地と高度経済成長期に開発された住宅地で構成される益富地区ですが、住民の世代交代、少子高齢化の進行をはじめとする社会情勢の変化により、地域運営のあり方も転機を迎えています。

これまで、益富地区では、自治区内のことは「自治区」が主体となって、また益富地区全体のことは「益富地区区長会」及び「益富地区コミュニティ会議」が調整役となって、相互に補完し合いながら地域運営を担ってきました。

加えて、豊田市は平成17年(2005年)4月の市町村合併を機に、「地域の声を的確に行政に反映させることのできる仕組み」として地域自治システムを導入しました。益富地区においても、平成18年(2006年)4月に「益富地域会議」が発足しています。

このような仕組みの下で地域運営がなされてきましたが、「自治区」や「地区区長会」・「地区コミュニティ会議」は、どうしても直面する地域課題への対応に時間を割かれ、また、「地域会議」にあっても数ある地域課題の中からテーマを絞って活動するため、“私たちが暮らす益富地区をどうしたいのか”、“5年、10年先を見据えた地区のあるべき姿”について話し合い、協議する機会がありませんでした。

そこで、『長期的なビジョンを持って益富地区のまちづくりに取り組むべき』との問題意識から、益富地域会議委員経験者を中心とする有志(益富地区まちづくり推進協議会準備委員)が中心となり働きかけ、令和4年(2022年)9月に、益富地域会議から豊田市長へ「将来を見据えた益富地区まちづくり計画の策定」についての提言をしていただくに至りました。

益富地区の将来ビジョンを示すことができれば、「自治区」も、「地区区長会」も、「地区コミュニティ会議」も一層活動がしやすくなり、継続性も担保されていくと思われます。

以上のような経緯を経て、令和5年(2023年)4月には益富地区まちづくり推進協議会が正式に発足しました。同協議会が推進主体となって、「益富地区まちづくり計画」の策定に取り組んでいます。

1-2 計画の位置づけ

(計画の役割)

「益富地区まちづくり計画」は次のような役割を担う計画です。

- 5年先、10年先といった将来を見据え、地域住民が主体的かつ計画的に益富地区のまちづくりを推進していくにあたっての指針とするもの。
- 共働の考えのもと、地域住民と市が益富地区のまちの将来像(ビジョン)を共有し、その実現に向かって共に活動していく際の指針とするもの。

(計画の構成)

「益富地区まちづくり計画」は、「基本計画」と「実践計画」の2層構成で策定しています。

基本計画 令和5年度(2023年度)に策定

- ・まちの将来像
- ・まちづくりの目標、活動の方針

実践計画 令和6年度(2024年度)に策定予定

- ・実施すべき取組・事業
(実施主体、実施時期、実施内容等)

計画は、令和5年度(2023年度)と令和6年度(2024年度)の2か年をかけて策定します。なお、計画策定期間中であっても、実施すべき取組・事業は推進できるよう努めます。

(計画の期間)

基本計画は10年先を見通した将来ビジョンとして作成しました。

実践計画は、このうち前期の5年間を目標とした計画として作成します。

(計画の対象)

「まちづくり」とは、地域をより良くするあらゆる行動・取組を指す言葉です。安全・安心な暮らし、産業・観光、自然、歴史・文化、都市基盤など、幅広い分野を対象とします。

(計画づくり・事業推進の担い手)

本計画は、市が施策の方向性や実現するための手段等を定める行政計画とは異なります。地域住民が主体となって立案し、推進・実現していく計画です。

計画は、「益富地区まちづくり推進協議会」が主体となって策定しますが、その過程では、益富地区の住民や地域で活動する諸団体など、多くの方々の参加・協力を得ています。

また、計画の実現(事業・取組の推進)は、地区住民や諸団体などに担っていただくこととなります。

第2章 益富地区の概況



2-1 地区の特性(現在のまちの姿)

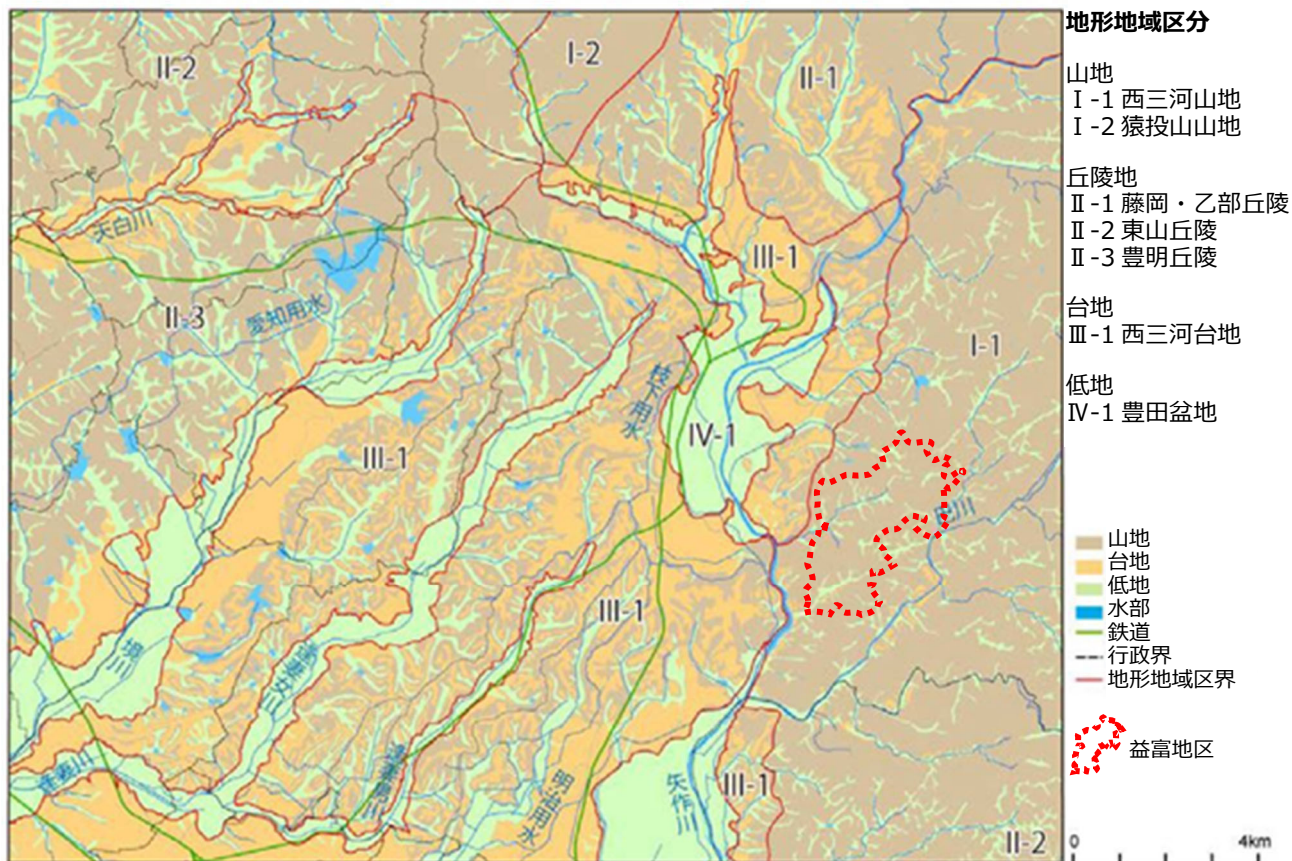
(1) まちの成り立ち

(地形・地質)

益富地区は、三河高原の西縁にあたる西三河山地に位置しており、そのすぐ西側は西三河台地との境となっています。水系は矢作川水系に属し、檜尾川、大見川などの支流が流れています。標高は低いところで35m(大見町8丁目交差点付近)、高いところで176m(古瀬間町追手地内)です。

山地の地質は、花こう岩や花こう閃緑岩^{せんりょく}といった花こう岩類で、風化作用を受け真砂土化しているところもみられます。

図表 2-1 地形地域区分図



出典:土地分類基本調査(土地履歴調査)説明書 国土交通省(平成24年3月)

(町村編入の歴史)

明治22年(1889年)10月1日に町村制が施行された際、古瀬間村、南古瀬間村、西大見村、飛泉村の4か村が合併し益富村ができました。「益富」の名の由来ですが、このときの合併に際して、益々村が富み栄えるようにとの願いを込めて命名されたと伝わっています。

現在の益富地区は、ほぼこの当時の益富村の村域に重なります。

その後、明治39年(1906年)に益富村と周辺7か村が合併し高橋村となり、さらに昭和31年(1956年)に拳母市(のちの豊田市)に編入されました。「古瀬間町」、「志賀町」、「大見町」、「泉町」の町名は拳母市に編入された際に設置された町名です。

昭和62年(1987年)には、五ヶ丘団地の完成により、新しい町として「五ヶ丘」が設置されています。

図表 2-2 町名の変遷

明治22年 (1889年) 以前	明治22年 (1889年) 10月1日 町村制施行	明治39年 (1906年) 7月1日	昭和31年 (1956年) 9月30日	昭和62年 (1987年)
古瀬間村	益富村	高橋村発足 (益富村は廃止) ・野見村、寺部村、 渋川村、上野山村、 市木村、平井村、 四谷村 ^[1] が合併	拳母市 ^[2] に編入 ・町名設置 (1959年10月～) 古瀬間町(古瀬間) 志賀町(南古瀬間) 大見町(西大見) 泉町(飛泉)	・町名設置 (1987年～) 五ヶ丘(志賀 町・野見山 町・宮前町・ 大見町・松平 志賀町)
南古瀬間村				
西大見村				
飛泉村				
備考		[1] 四谷村のうち、旧・元 山中村は石野村に編入	[2]昭和34年1月1日豊 田市に改称	

(戦後の宅地開発)

益富地区は、戦後の昭和40年代半ば(1970年頃)まで、農地や林野が大半を占める農村部でしたが、市が住宅開発の推進を施策として打ち出し、市内では最も早く市営住宅の志賀団地が建設されました。これに続き志賀ニュータウン、古瀬間グリーンパーク、五ヶ丘団地が次々開発され、一躍人口急増地域となりました。

人口の急増に伴い生徒数も急増したため、昭和59年(1984年)に新たに益富中学校が開校されています。平成9年(1997年)には生徒数1,000人を超える市内一のマンモス校となりましたが、その後は生徒数の減少が続いています。

(土地利用)

益富地区には、東西方向に国道301号が、南北方向に外環状線が走り、地区の基幹道路となっています。また、地区の東に東海環状自動車道の豊田松平インターがあり、高速道路へのアクセスにも便利なところです。

志賀町・泉町・五ヶ丘の住宅地は市街化区域に指定されており、外環状線沿線に商業施設・サービス施設の立地がみられますが、その他は区画整理、団地開発などで整然と整備された住宅地となっています。

その他の地域や古瀬間グリーンパークは市街化調整区域になっており、これらの地域の周りには、農地や林地がいまも残されています。なお、古瀬間町には39.8haの広大な面積をもつ市営の墓地公園が広がっています。

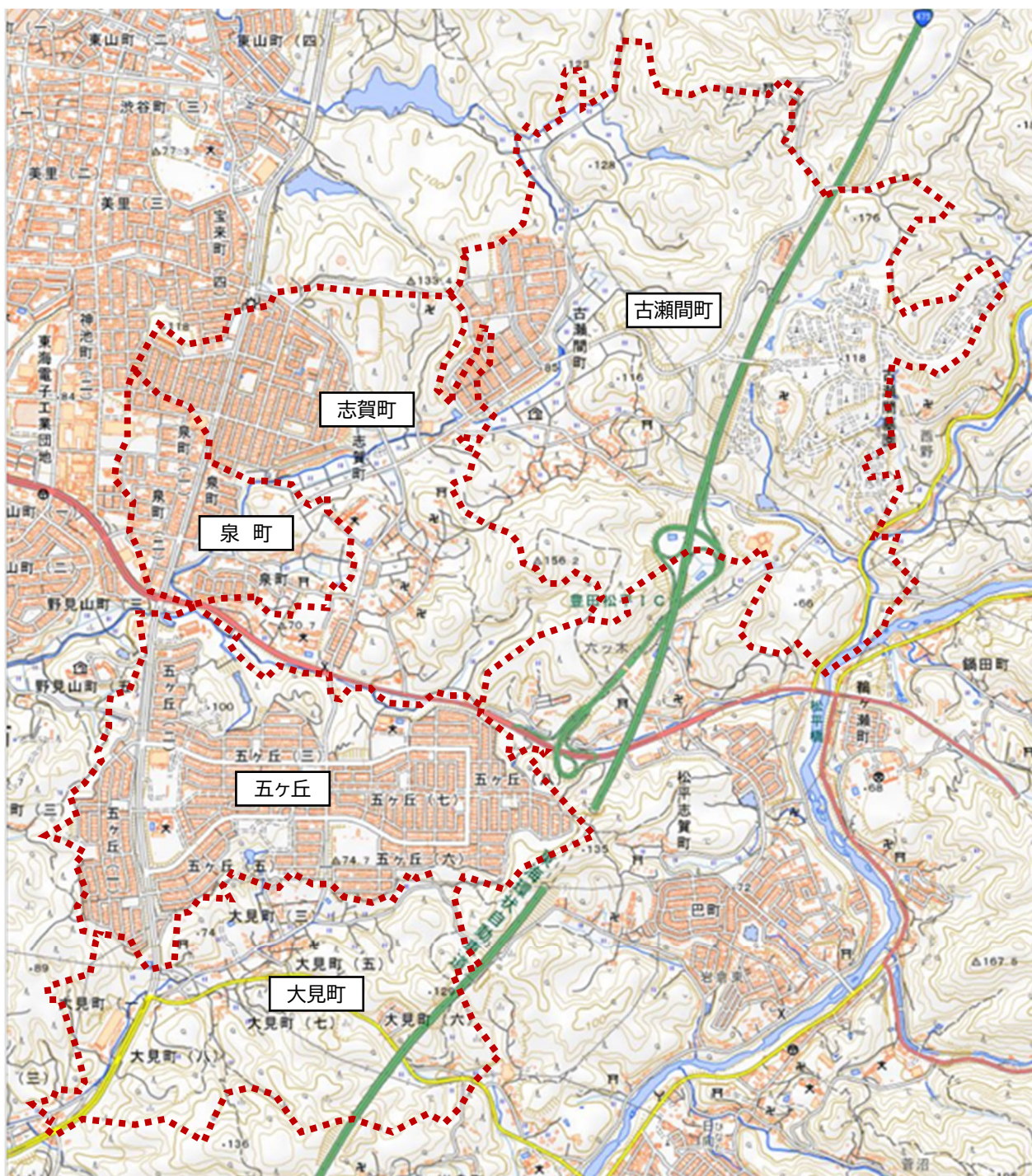
益富地区には、益富中学校と3つの小学校、益富交流館、五ヶ丘運動広場、古瀬間運動広場、古瀬間聖苑、古瀬間墓園などの公共施設が立地しますが、大型の商業施設などは限ら

れ、住宅地に特化した地区となっています。

(公共交通)

名鉄豊田市駅(東口)と古瀬間町・古瀬間墓園の間を走行する名鉄バス(2系統)と、名鉄豊田市駅から五ヶ丘を經由して三河豊田駅(愛知環状鉄道)・土橋駅(名古屋鉄道)の間を走行するとよたおいでんバス(1系統)があります。

図表 2-3 地形図



出典:国土地理院 地形図 1/25,000「豊田南部」

(2) 地域資源

益富地区では、平成24年度(2012年度)に「益富みどころMAP」を作成しました。ここには自然資源、歴史資源、文化資源など29の地域資源がピックアップされています。

図表 2-4 益富の地域資源

区分	地域資源 ↓ 下記の○数字は、図表 2-5 の地域資源の番号を示す。
自然資源	<p>⑥香九礼ヶ丘[志賀町]……山頂公園。市街地を一望できる眺望が魅力</p> <p>⑨カワニナ飼育水路[古瀬間町]……ホタルの幼虫の餌になるカワニナを飼育</p> <p>⑬古瀬間古道[古瀬間町・志賀町]…志賀神社につながる木立に囲まれた古道</p> <p>⑳草笛の丘[五ヶ丘]……五ヶ丘団地内の5つの丘の一つ。団地が眺望できる。</p> <p>㉔五ヶ丘公園[五ヶ丘]……地域最大の都市公園。9,000㎡の広場、テニスコート等</p> <p>㉘五ヶ丘遊歩道[五ヶ丘]……五ヶ丘団地の中央を東西に延びる遊歩道</p>
歴史資源	<p>④神明宮[泉町]……天明6年(1786年)創建。樹齢330年のモミの木</p> <p>⑦石仏[志賀町]……「おこり(風土病)」を治すと伝わる。市名木「エノキ」</p> <p>⑩古瀬間御嶽山[古瀬間町]…御嶽神社の一つ。「火渡り」・「ミツバツツジ」が有名</p> <p>⑪龍田院[古瀬間町]……永正12年(1515年)創建の曹洞禅宗の寺</p> <p>⑫白山社[古瀬間町]……慶長5年(1600年)創建。民俗無形文化財「古瀬間囃子」</p> <p>⑭白石観音[志賀町]……白石に彫られた如意輪観音菩薩が本尊の仏様</p> <p>⑮志賀神社[志賀町]……室町時代に京都日枝山の山王大権現を勧請した</p> <p>⑯庚申寺[志賀町]……本尊は十一面観音菩薩。市名木指定「イチヨウ」の木</p> <p>⑰西谷院[志賀町]……正保2年(1645年)松沢玄蕃(豪族)が構えた屋敷</p> <p>⑱浄願寺・小督局の墓[志賀町]……弘仁11年(820年)開山の真宗大谷派のお寺 平安時代80代高倉天皇の女官小督局の墓</p> <p>⑲古瀬間城址公園・歌碑の里[志賀町]……三河戦国時代の代表的な山城。市指定の文化財。梅林、歌碑などが整備された史跡公園</p> <p>㉑大窪遺跡[志賀町]……縄文早期(約7000年前)の岩陰遺跡。市指定の文化財</p> <p>㉒八柱神社[大見町]……元禄元年(1688年)に八柱が祭祀された。鎮守の神</p> <p>㉓大見不動「大日大聖不動明王」[大見町]…延文3年(1358年)創建。村の守り本尊</p> <p>㉔馬頭観音地蔵[大見町]……地蔵尊の頭に馬を彫った石像。馬の無事等を祈った。</p>
公共施設	<p>①益富交流館[志賀町]……昭和62年(1987年)開館。地域の交流拠点</p> <p>②古瀬間小学校[志賀町]……明治8年(1875年)開校の伝統ある小学校</p> <p>③益富中学校[志賀町]……昭和59年(1984年)に美里中学校より分離開校</p> <p>⑤志賀子どもつどいの広場[志賀町]……平成20年(2008年)開設の子育て支援施設</p> <p>⑧益富こども園[志賀町]……平成19年(2007年)開設のこども園</p> <p>⑫五ヶ丘小学校[五ヶ丘]……昭和62年(1987年)に古瀬間小学校より分離開校</p> <p>⑰五ヶ丘運動広場・マレットゴルフ場[五ヶ丘]…天然芝サッカー場とマレットゴルフ場</p> <p>⑲五ヶ丘東小学校[五ヶ丘]…平成2年(1990年)に五ヶ丘小学校より分離開校</p>

図表 2-5 益富みどころMAP

益富

MASUTOMI

みどころMAP



益富地区 シンボルキャラクター

名前は「くるみん」です。
みなさんよろしくね♪

- くるみんの由来
 - ◇ゲンジホタルの学名「ルキオラ・クルキアタ」の一部
 - ◇地域をくるみ込む
- この2つの意味から、ホタルの飛び交う益富地域を温かく包み込んでくれる存在になるようにという願いが込められています。

誕生日 平成24年11月11日



(3) 人口・世帯数

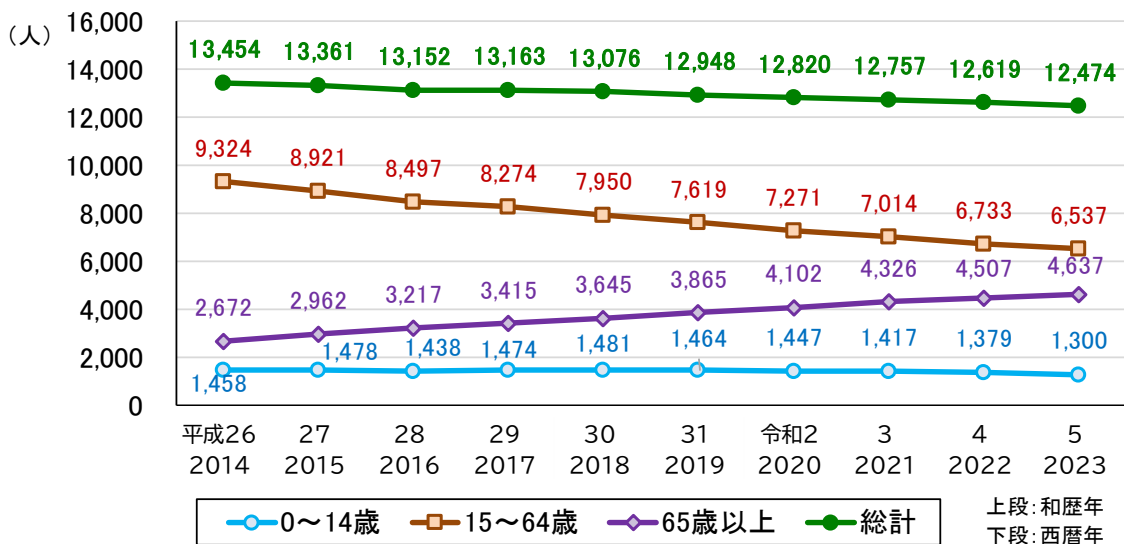
(人口・世帯数の推移)

平成26年(2014年)に13,454人だった人口は、令和5年(2023年)には12,474人となり、この9年間で980人の減少となっています。平成26年(2014年)当時の人口の7.3%が減少したことになります。

0～14歳人口(年少人口)と15～64歳人口(生産年齢人口)はともに減少傾向にあり、65歳以上人口(高齢人口)が急増しています。高齢化率(人口に占める65歳以上人口の割合)は平成26年(2014年)には19.9%でしたが、令和5年(2023年)には37.2%にまで上昇しています。

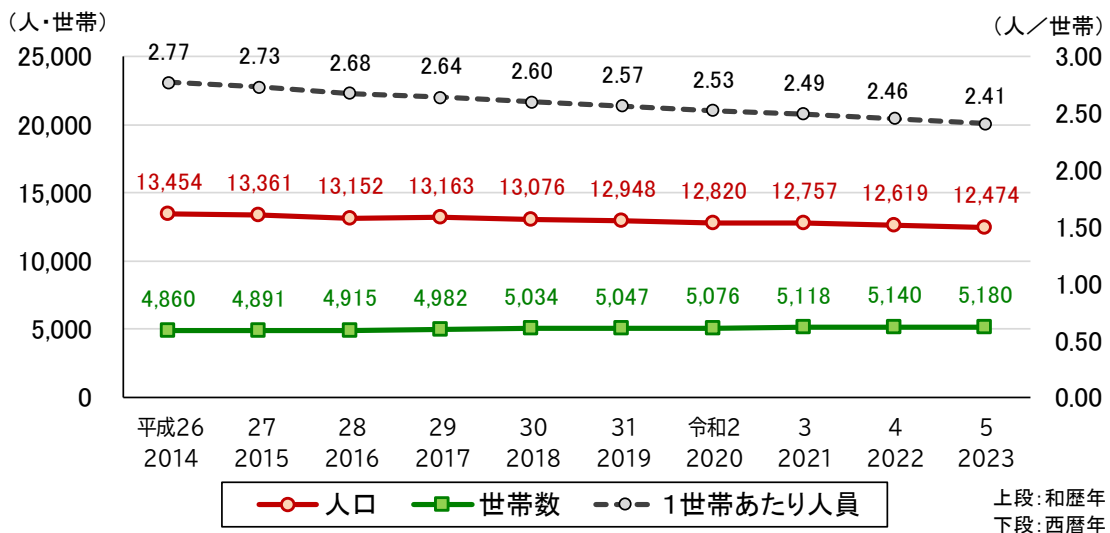
一方、世帯数は、平成26年(2014年)に4,860世帯で、令和5年(2023年)には5,180世帯となっており、320世帯増加しています。

図表 2-6 年齢3区分別、人口の推移



資料:住民基本台帳人口(各年4月1日現在)

図表 2-7 人口・世帯数の推移



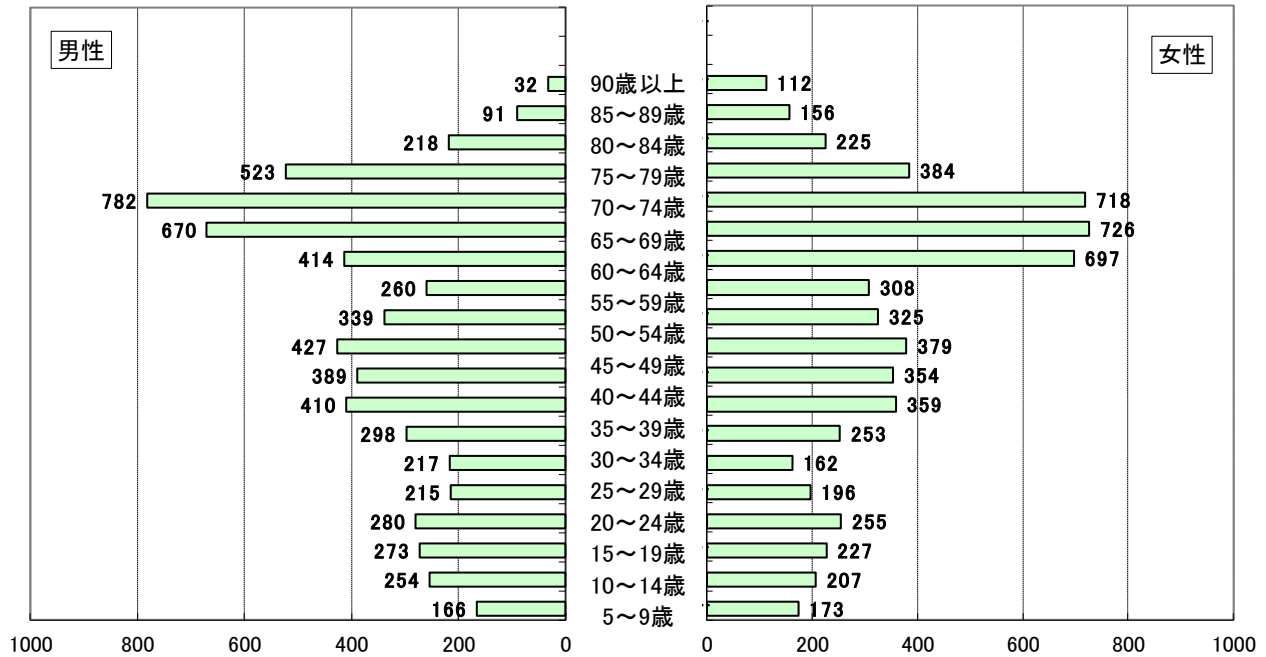
資料:住民基本台帳人口(各年4月1日現在)

(人口構造)

人口ピラミッド(年齢5歳階級別・男女別人口)をみると、70～74歳人口は1,500人で最も多く、次いで、65～69歳の1,396人、60～64歳の1,111人となっています。

住宅団地が開発された当時の新規入居世代に相当する60歳代、70歳代の人口が突出して多い人口構造となっています。

図表 2-8 人口構造(人口ピラミッド) 令和5年



(単位:人)

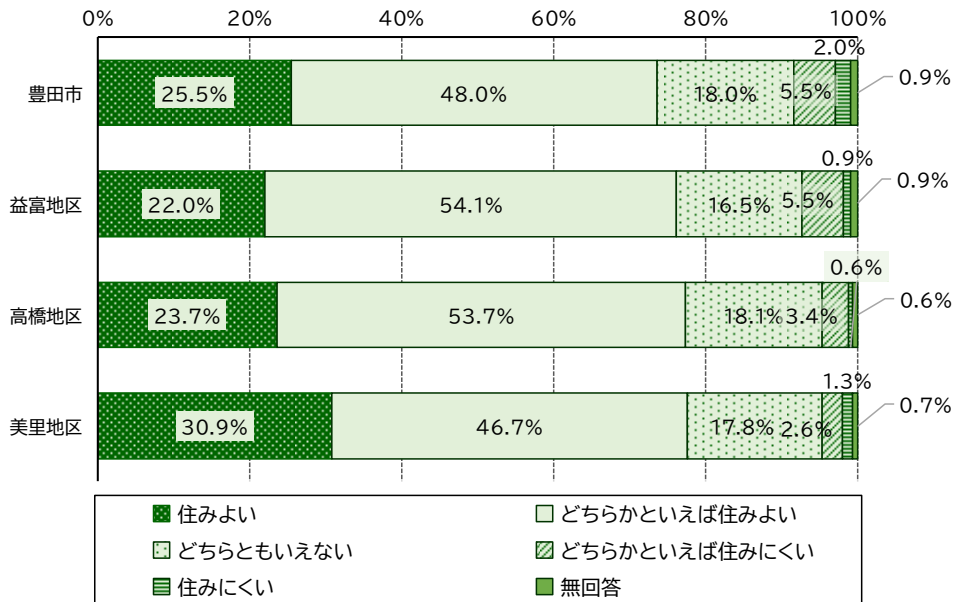
年齢区分	男性	女性	小計	年齢区分	男性	女性	小計
0～4歳	166	173	339	50～54歳	339	325	664
5～9歳	254	207	461	55～59歳	260	308	568
10～14歳	273	227	500	60～64歳	414	697	1,111
15～19歳	280	255	535	65～69歳	670	726	1,396
20～24歳	215	196	411	70～74歳	782	718	1,500
25～29歳	217	162	379	75～79歳	523	384	907
30～34歳	298	253	551	80～84歳	218	225	443
35～39歳	410	359	769	85～89歳	91	156	247
40～44歳	389	354	743	90歳以上	32	112	144
45～49歳	427	379	806	合計	6,258	6,216	12,474

資料:住民基本台帳人口(令和5年(2023年)4月1日現在)

(4) 住民意識 (第24回豊田市市民意識調査(令和5年(2023年)6月)より)
(住みよさ)

「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合計は76.1%です。市全体の73.5%よりはやや高く、高橋地区の77.4%、美里地区の77.6%に近い割合となっています。

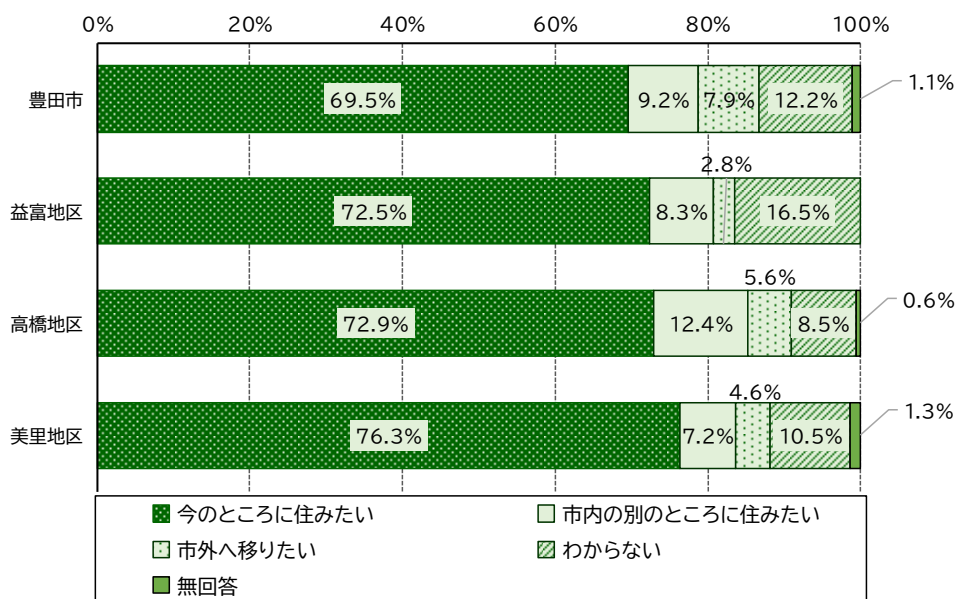
図表 2-9 住みよさ



(定住意識)

「今のところに住みたい」は72.5%で、高橋地区とほぼ同じです。市全体の69.5%よりはやや高く、美里地区の76.3%よりも低くなっています。

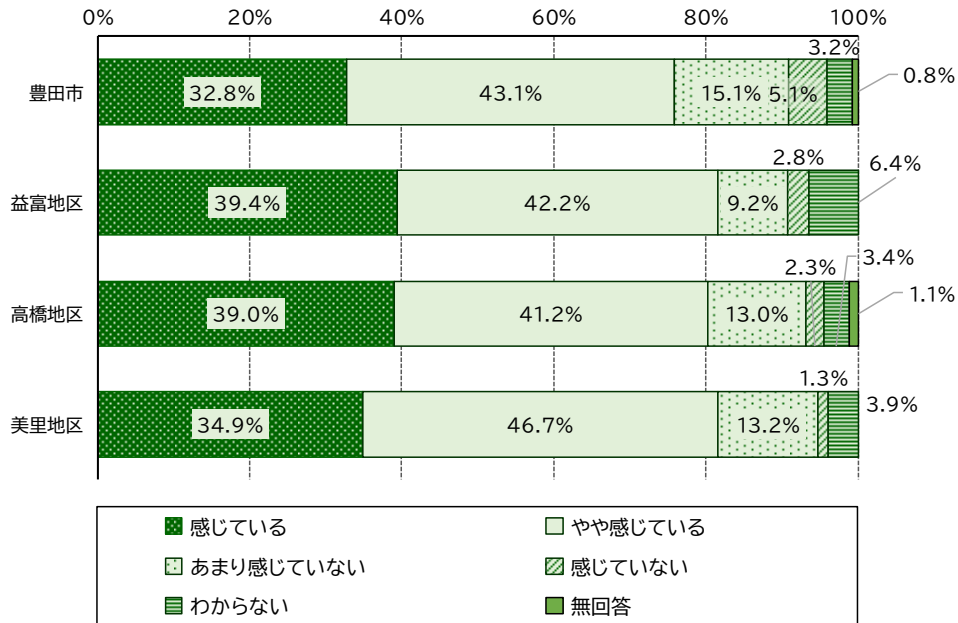
図表 2-10 定住意識



(地域への愛着)

「感じている」と「やや感じている」の合計は81.6%です。市全体の75.9%より5.7ポイント高くなっています。高橋地区の80.2%、美里地区の81.6%とほぼ同様の割合です。

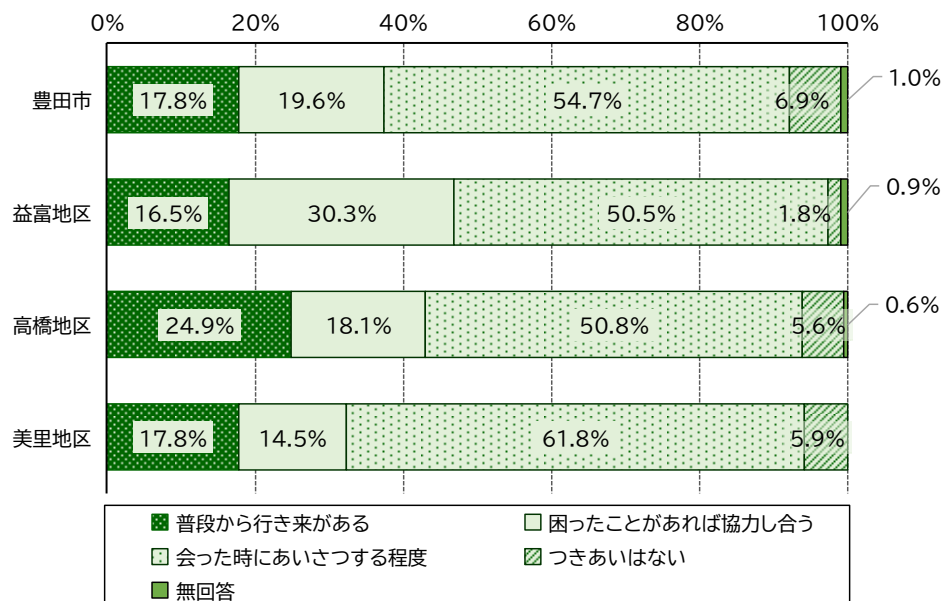
図表 2-11 地域への愛着



(実際の近所づきあい)

「普段から行き来がある」と「困ったことがあれば協力し合う」の合計は46.8%で、市全体の37.4%、高橋地区の43.0%、美里地区の32.3%よりも高くなっています。

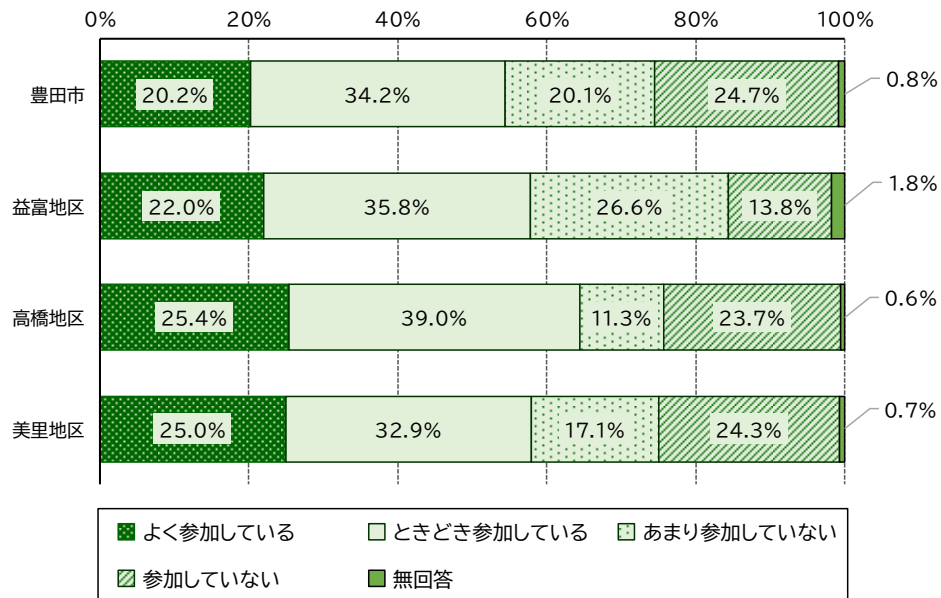
図表 2-12 実際の近所づきあい



(自治区・地域活動への参加状況)

「よく参加している」と「ときどき参加している」の合計は57.8%で、美里地区の57.9%とほぼ同様です。市全体の54.4%よりも高いものの、高橋地区の64.4%よりも低くなっています。

図表 2-13 自治区・地域活動への参加状況



2-2 将来予測

豊田市が公表している「地域カルテ(2022年4月版)」によると、益富地区の将来人口は次のように推計されています。

(1) 将来人口

令和17年(2035年)の人口は10,268人と推計されています。令和2年(2020年)人口よりも2,073人の減少と見込まれます。令和2年比で16.8%の減少となります。

このうち65歳以上人口は、令和7年(2025年)に4,834人でピークを迎えますが、その後は徐々に減少し、令和17年(2035年)には4,343人になると予想されています。

一方、高齢化率は、現在の33.4%から令和12年(2030年)に42.9%まで上昇すると見込まれていますが、令和17年(2035年)にはわずかに下がって42.3%となります。

また、0～14歳人口(子どもの数)は令和2年(2020年)の1,406人が令和17年(2035年)には1,201人まで減少すると見込まれています。

図表 2-14 益富地区の将来人口

年		令和2年 2020年 (実測)	令和7年 2025年 (推計)	令和12年 2030年 (推計)	令和17年 2035年 (推計)	令和22年 2040年 (推計)
人口	総人口	12,341 (100.0%)	11,836 (100.0%)	11,126 (100.0%)	10,268 (100.0%)	9,350 (100.0%)
	0～14歳	1,406 (11.4%)	1,337 (11.3%)	1,268 (11.4%)	1,201 (11.7%)	1,219 (13.0%)
	15～64歳	6,811 (55.2%)	5,665 (47.9%)	5,089 (45.7%)	4,724 (46.0%)	4,170 (44.6%)
	65歳以上	4,124 (33.4%)	4,834 (40.8%)	4,769 (42.9%)	4,343 (42.3%)	3,960 (42.4%)
(参考)	65～74歳	2,802 (22.7%)	2,645 (22.3%)	1,960 (17.6%)	1,209 (11.8%)	1,183 (12.7%)
	75歳以上	1,322 (10.7%)	2,189 (18.5%)	2,809 (25.2%)	3,134 (30.5%)	2,777 (29.7%)
	85歳以上	293 (2.4%)	394 (3.3%)	558 (5.0%)	989 (9.6%)	1,189 (12.7%)

資料:益富 地域カルテ(2022年4月版) 国勢調査を基に推計(各年10月1日現在)

(2) 社会環境の変化

(本格的な人口減少社会の到来)

豊田市の人口は、令和元年(2019年)以降減少に転じています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、令和2年(2020年)に約42万人であった人口は、令和32年(2050年)は約37万人程度になると予想されています。

かつて人口急増地区であった益富地区ですが、今後の人口減少、少子高齢化は避けて通れません。「人口減少社会」、「超高齢社会」を前提としたまちづくりが求められています。

(持続可能な社会づくり)

国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は、令和12年(2030年)までの15年間で達成することを目指す国際社会全体の開発目標で、持続可能な社会づくりに向けて世界を大きく変革していこうとするものです。

私たちにとって、身近な益富地区のまちづくりを考えるにあたっては、SDGsが目指す目標達成に向けて貢献していくことが求められています。



資料:国際連合広報センターHPより

(デジタル社会の進展)

昨今のデジタル社会の進展はめざましく、生産・消費といった経済活動のみならず、身近な地域活動のあり方も大きく変革していく可能性を秘めています。

今後のまちづくりを推進していくにあたっては、地域の課題解決に向けて、上手にデジタル技術を活用していくことが望まれます。

(大規模自然災害への備え)

豊田市では、南海トラフ地震発生への切迫性、活断層の存在が指摘されており、巨大地震や直下型地震の発生に備える必要があります。また、気候変動に伴い、極端な高温や大雨によるリスクも高まっています。

こうした自然災害は、ときに住民の生命・財産を奪い、地域住民の暮らしに大きな影響をもたらすことが危惧されます。自然災害への対策は、平時から継続して取り組んでいくことが必要です。



資料:益富地区防災マニュアル(2023.7)

(多様性を認め合う社会づくり)

社会の成熟化に伴い、人々のライフスタイルや価値観の多様化を背景として、性別、国籍、障がいの有無、文化・習慣にかかわらず、その多様性を認めあいながら互いに活躍できる社会づくりが求められています。

豊田市で働く外国人労働者も増加してきています。言語、文化、宗教など、多様な背景を持つ人々も地域社会の構成員として共に暮らしていくという、地域における多文化共生を推進する必要性は今後さらに進展していくものと考えられます。

2-3 将来への不安と期待

令和5年(2023年)7月30日(日)に、益富地区まちづくり計画策定に向けた第1回ワークショップを開催しました。この中で、10年後の益富地区への不安と期待について意見交換しました。そこで提示された主な意見を簡潔に紹介します。

なお、全体の意見をまとめた資料を巻末の資料編に掲載しています。

(1) 10年後の益富地区への不安

(近隣関係が希薄化していくことの不安)

- 近隣関係(近所づきあい)が希薄化していくことが心配。
- 隣近所に住んでいる人の顔がわからなくなる。皆がバラバラになるおそれ。
- 障がいをもつことになったとき、認知症、独居になったとき、頼る人がいなくなる。

(高齢者の増加・孤立、事件・事故・災害の心配)

- 高齢者が増加し、高齢者ばかりの街になる。地域活動が停滞するおそれ。
- 高齢者の一人暮らしが増える。孤立する人・家庭が多くなる。
- 車がないと生活できない。公共交通機関が少なくなり、移動が困難になる。
- 高齢者が増えて事件に巻き込まれたり、交通事故が増えたりすることが心配。
- 気候変動による自然災害の増加。

(若い人・世帯が住みつかなくなる、活気がなくなる)

- 少子化が進行し若い人・子どもが居なくなってしまう。若い人が住みたいと思えないまちになる。
- 人が減る。減ってほしくない。世代交代ができないまちとなる。
- 子育て世代にとって不安の受け皿がない。不安を感じる。
- お店や病院が減少し活気のないまちになるおそれ。空き家が増えて治安が悪くなる。

(自然環境の荒廃・破壊の心配、伝統継承が困難になる)

- 自然の荒廃・自然破壊が心配。人口が減って畑や公園が獣害で荒らされる。
- 歴史ある行事の担い手がいなくなり、地域の伝統を継承していくことが困難になる。
- 周辺環境が悪化し、ゴミや汚れが目立つまちになる。まちの景観が悪くなる。

(2) 10年後の益富地区への期待

(世代を超えた交流・ふれあいがあるまち)

- 子どもから高齢者まで、交流機会がたくさんあるまち。たくさんのお祭り、イベントがある。
- 顔が見える関係。みんなの顔がわかる、あいさつできる地域。
- 世代を超えて意見交換ができる。子どもたちと意見交換、中学生がまちづくり提案。
- 年齢に関係なく仲がいい。みんな仲良く明るく、健康に。
- みんなが集まれる場があるまち。みんなが集うカフェや公園がある。農業で交流。

(安心して暮らせるまち)

- 誰一人取り残さない。生活弱者が安心して暮らせる、分断や差別、偏見がないまち。
- 隣近所で助け合い、住民同士の協力がさらに良くなるまち。おたがいさまのまち。
- 高齢者にやさしいまち。高齢者を支えるしくみがある。車がなくても暮らせる。
- 事故のないまち。交通事故がなくなる。
- シニア(アクティブシニア)が活躍する。

(若い世帯が暮らすまち)

- 子どもにやさしいまち。子どもたちが思い切り遊べる。
- 若い家族が住み続ける。若者が戻り、子どもが増える。子どもたちが戻ってくる。
- 子育て応援。子育てしやすいまち。子育てが楽になるためのママへの応援。
- 若い人が地域を担うように。若い世代が自治区活動へ。
- 活気・にぎわいがあるまち。飲食店が増えるといいな。IT化。企業もまちづくり。
- 健康で元気なまち。愛着のあるまち。

(自然環境、伝統・文化を受け継ぐまち)

- 自然を大切にする。自然が豊か(今のまま)。自然と共存したまち。
- 益富の伝統を忘れない、受け継ぐまち。文化を大切にする。

第3章 まちの将来像



3-1 まちの将来像（私たちが目指すまちの姿）

益富地区は、伝統・文化、自然環境に恵まれた地区です。一方、人口減少、少子高齢化が顕著に進行している地区でもあります。こうした地域の特性・現状をふまえて、私たちは、5年先、10年先といった中長期的な視点で地域の課題をとらえ、住民や各種団体がみんなの力をあわせて総合的なまちづくりを推進していくことが必要です。

益富地区は、「困ったときには協力し合う」とする割合が相対的に高く、近所づきあい、地域コミュニティ、人と人のつながりは益富地区の大きな“強み”“特長”と言えます。しかしながら、10年後の不安・期待をテーマに意見交換した住民ワークショップでは、近隣関係(近所づきあい)の希薄化を心配する意見が多く、交流・ふれあいがあるまちを期待する声が多く寄せられました。

急速に進む高齢化、若者世代の減少、伝統・文化、自然環境などの地域課題に、地域を挙げて取り組んでいくためにも、良好な人と人のつながりを誇れる益富にしていくことが必要と考えました。

そこで、まちの将来像(私たちが目指すまちの姿)を次のように決めました。



3-2 計画の体系(まちづくりの目標と活動方針)

まちの将来像の実現に向けて、本計画では、まちづくりの目標と活動方針を以下のように決めました。



第4章 まちづくりの目標と活動方針



まちづくりの目標 【目標1】 交流・ふれあい

様々な垣根を越えた交流、人と人のふれあいがあり、
みんなが仲良く暮らせる益富に！

益富地区は古くからの住宅地と高度経済成長期に整備された住宅団地で構成されています。古瀬間町、志賀町、大見町、泉町、五ヶ丘の5つの町があり、さらに14の自治区に分かれて基本的な自治活動が行われています。しかしながら、都市化の進展・地域社会の変容に伴い近隣関係(地縁的なつながり)の希薄化を心配する声は多く、地域コミュニティの衰退が危惧されるようになってきました。

今後、益富のまちづくりを推進していくにあたっては、地域でお互いの顔が見える関係をつくっていくこと、そして人と人のつながりを深めていくことが非常に大切であり、豊かな地域をつくり上げていく上での基本であると考えます。そこで、益富地区での様々な活動を通して、様々な垣根を越えた交流、人と人のふれあいがあるまちづくりを進めて、みんなが仲良く暮らせる益富にしていきます。

(活動の方針)

方針1 あいさつを通じて地域のつながりを深めよう

人と人、地域のつながりを深めていくため、「おはよう」、「こんにちは」、「ありがとう」など、何気ないあいさつを気楽に交わすことができるまちにしていきます。

方針2 垣根を越えた交流を活発にしよう

性別、年齢、国籍、障がいの有無といった様々な垣根を越えて、益富に暮らすみんなが互いにコミュニケーションを取り合い、人と人のつながりをつくっていくため、住民の交流活動を活発にしていきます。

方針3 みんなが気軽に交流できる居場所をつくろう

みんなが気軽に集まり、交流して楽しく過ごせるような居場所づくりを進めます。



まちづくりの目標 【目標2】生涯活躍、安心・安全

**だれもが健康で元気に活躍でき、
安心・安全に暮らすことのできる益富に！**

益富地区は住宅団地が開発された当時に新たに居住した世代に相当する60歳代、70歳代の人口が突出しており、今後、この世代が後期高齢者となる時代を迎えます。こうした背景から、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加、地域活動の停滞、運転できなくなったときの生活不安、事件や交通事故の発生、災害時の対応の遅れなどが地域の心配事として取り上げられています。

一方、高齢者の知恵、技術、経験は益富地区にとっての貴重な財産でもあります。高齢者の増加に伴う様々な地域の心配事・不安を払拭しつつ、だれもが健康で元気に活躍しつづけることのできるまちづくり、安心・安全に暮らすことのできるまちづくりを進めます。

(活動の方針)

方針1 高齢者のいきいきとした暮らしを実現しよう

知恵、技術、経験を活かして、高齢になっても地域でいきいきと活躍できる場づくりを進めます。また、車がなくても困らないよう、自家用車に頼らない移動手段の確保等に取り組みます。

方針2 支え合いのしくみをつくろう

高齢者や障がいをもつ人など益富に暮らすだれもが、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、地域における支え合いのしくみづくりを進めます。

方針3 日々の暮らしの安心・安全を確保しよう

大規模地震や風水害などの災害への対応力を高め、安心して暮らせるまちづくりを進めます。また、事件や事故に巻き込まれる心配のない、安全なまちづくりを進めます。



まちづくりの目標 【目標3】若い世代・活力

若い世代にも魅力ある暮らしを育み、 楽しく活力ある益富に！

益富地区では、平成30年(2018年)以降、子どもの数(0~14歳までの年少人口)の減少が続いています。この少子化傾向は今後さらに加速していくと予想されます。将来に向けて益富地区の持続的な発展を考えると、若い人たちが地域に残る、あるいは若い人たちが集まってくる、そうした視点からの取組にも力を入れていく必要があります。

そこで、益富地区の様々なまちの魅力を発掘し情報発信するとともに、若い世代が『ここに住みたい！』と思えるまちづくりを進め、あわせて住民のだれもが主体的に活動し、楽しく活力ある益富にしていきます。

(活動の方針)

方針1 まちの魅力づくりを進め情報を発信しよう

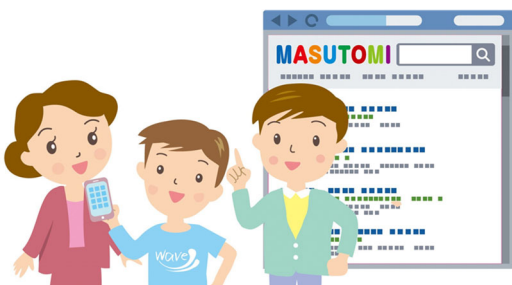
若い世代の人たちに益富地区の魅力を知って、良さを感じてもらえるように、益富のまちの魅力づくりを進め、情報発信していきます。

方針2 若い世代が『ここに住みたい！』と思えるまちにしよう

若い世代が、『ここに住みたい！』と思える魅力づくりを進めます。また、新しい価値観・新しいライフスタイルの提案につながるような取組にも挑戦していきます。

方針3 様々な交流の活動を地域に根付かせよう

住民のだれもが主体的に活動し、様々な交流の活動を地域に根付かせます。その結果として、住民一人ひとりのいきいきとした暮らしを育み、楽しく活気ある益富にしていきます。



まちづくりの目標 【目標4】 伝統・文化、自然環境

地域の伝統・文化、自然環境を理解し、 その価値を後世に伝え継ぐ益富に！

益富地区は、昭和40年代の半ばまでは農地や林野が大半を占める農村部でしたが、その後の住宅開発によって市街化が進み現在に至っています。旧農村部から発展した地域にはその地域の、新たな住宅地域にもその地域のそれぞれの生き立ちがあり、その地域の個性があります。しかしながら、こうした地域固有の伝統・文化があっても地域住民に知られていない、学ぶ機会がないといったことや、人口の減少により歴史ある行事の担い手が不足しているといった問題が生じています。

また、市街地を取り巻く山・川、田畑といった緑豊かな環境は地区住民にとってかけがえない財産ですが、手入れが行き届かず荒廃していくことなども心配されるところです。

そこで、益富地区の魅力の源である地域固有の伝統・文化、自然環境を正しく知り、大切に保全するとともに、その価値を後世に伝え継ぎ、さらなる文化の創造、活用へとつなげていきます。

(活動の方針)

方針1 益富の伝統・文化を知り継承しよう

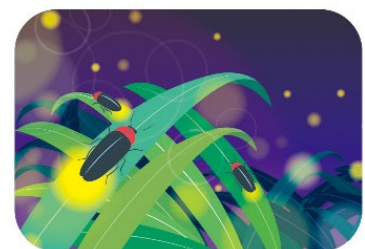
益富地区の伝統・文化をみんなに知ってもらおうよう取り組むとともに、次の世代を中心に継承への興味・関心を醸成します。また、益富地区全体で伝統・文化を継承していく取組についても推進していきます。

方針2 自然環境を保全しよう

将来にわたって自然の恩恵を受けることができるよう、自然環境への理解を促しつつ、自然環境の維持・保全のための取組を進めます。

方針3 美しいまちを維持しよう

みんなが心地よく暮らしていくため、道路や公園などでのゴミのポイ捨てをなくし、まちの景観を美しく維持していきます。



資料1 益富地区まちづくり計画 基本計画策定の経過

年月日	内容(主な議題)
令和5年(2023年) 4月28日	第1回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ 益富地区コミュニティ会議「まちづくり推進協議会」の承認 ・ 令和5年度活動予定 (まちづくり計画策定内容・スケジュール)
令和5年(2023年) 5月12日	第1回 益富地区まちづくり推進協議会 打合せ ・ 第1回ワークショップ(7/30 開催)の進め方 (参加者募集・グループ編成、プログラム) ・ まちづくり計画 章構成(案)
令和5年(2023年) 5月18日	第2回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ まちづくり計画策定の経緯・位置づけ ・ まちづくり推進協議会の役割・活動 ・ 第1回ワークショップの内容・運営方法
令和5年(2023年) 6月15日	第3回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ 第1回ワークショップの内容・運営方法 (メンバー・グループ分け、プログラム、説明資料) ・ まちづくり計画(第1章・第2章試案の検討)
令和5年(2023年) 7月20日	第4回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ 第1回ワークショップの内容・運営方法 (メンバー・グループ分け、プログラム、進行、配付資料の最終確認)
令和5年(2023年) 7月30日	第1回 益富地区まちづくり計画策定に向けたワークショップ [テーマ] 10年後の益富の将来像・ありたい姿 理想のまち・暮らしを考えてみよう！ ・ 計画策定の趣旨(計画策定の経緯と位置づけについての説明) ・ 10年後の益富への期待と不安、10年後の理想のまち・暮らし
令和5年(2023年) 8月8日	第2回 益富地区まちづくり推進協議会 打合せ ・ 第1回ワークショップ(7/30 開催)のまとめ ・ 第2回ワークショップ(9/24開催)の進め方
令和5年(2023年) 8月17日	第5回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ 第1回ワークショップ(7/30 開催)のまとめ ・ まちの将来像(案)、まちづくりの目標と方針(案)の検討 ・ 第2回ワークショップ(9/24開催)の進め方
令和5年(2023年) 9月21日	第6回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ 第2回ワークショップ(9/24開催)の内容・運営方法 (会場レイアウト、プログラム、進行、配付資料の最終確認)
令和5年(2023年) 9月24日	第2回 益富地区まちづくり計画策定に向けたワークショップ [テーマ] まちづくり計画の方針を検討しよう！ 益富地区の課題と課題解決に向けたアイデア出し！ ・ 第1回ワークショップ(7/30 開催)のおさらい ・ 4つの分野別、課題と課題解決に向けたアイデア出し

年月日	内容(主な議題)
令和5年(2023年) 10月19日	第7回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ 第2回ワークショップ(9/24開催)のまとめ ・ 第3回ワークショップ(12/17開催)の進め方
令和5年(2023年) 11月5日	益富ふれあいまつり ・ まちづくり推進協議会の活動をパネルにて展示
令和5年(2023年) 11月16日	第8回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ まちづくり計画 まちづくりの目標と方針(案)の検討 ・ 第3回ワークショップ(12/17開催)の内容・運営方法 (会場レイアウト、プログラム、進行、配付資料の最終確認) ・ 広報紙「ますとみまちづくりだより」第2号についての協議
令和5年(2023年) 11月29日	第3回 益富地区まちづくり推進協議会 打合せ ・ 第3回ワークショップ(12/17開催)の内容・運営方法(最終確認) ・ 益富区長会及び益富地域会議への進捗状況説明についての協議 ・ 令和6年度検討会の日程調整についての協議
令和5年(2023年) 12月17日	第3回 益富地区まちづくり計画策定に向けたワークショップ [テーマ] まちづくり計画素案のブラッシュアップ！ ・ 第2回ワークショップ(9/24開催)のおさらい ・ まちづくり計画素案に対する賛同・改善意見の聴取
令和5年(2023年) 12月21日	第9回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ 第2回ワークショップ(12/17開催)の振り返り ・ 益富まちづくり計画策定の状況報告についての協議 ・ 令和6年度 実践計画策定作業についての協議
令和6年(2024年) 1月17日	益富地域会議 ・ 益富まちづくり計画策定の状況報告
令和6年(2024年) 1月18日	第10回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ 益富まちづくり計画(案)についての協議 (第3回ワークショップ意見の反映、今後の作業予定)
令和6年(2024年) 2月3日	益富地区区長会 ・ 益富まちづくり計画策定の状況報告
令和6年(2024年) 2月15日	第11回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ 益富まちづくり計画(最終案)についての協議 ・ 概要版リーフレット(案)についての協議
令和6年(2024年) 3月21日	第12回 益富地区まちづくり推進協議会 検討会 ・ 令和6年度実践計画策定作業についての協議 ・ 益富地区まちづくり推進協議会会則の検討

資料2 益富地区まちづくり計画策定に向けたワークショップ(開催概要)

益富まちづくり計画策定に向けて、地区住民や地域で活動する諸団体など、多くの方々の参加・協力を得てワークショップを開催しました。開催の経緯、参加団体は以下のとおりです。

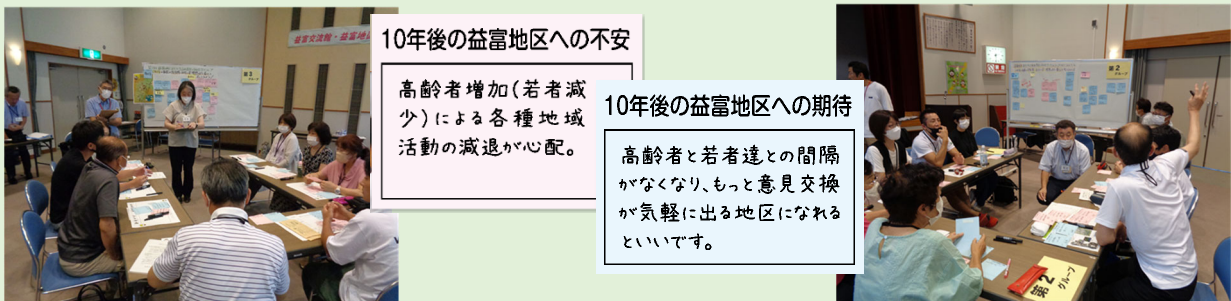
(ワークショップ開催の経緯)

第1回ワークショップ 2023.07.30 (日) 13:30~15:40

テーマ:10年後の益富の将来像・ありたい姿 理想のまち・暮らしを考えてみよう!

10年後の益富地区への期待と不安を青・赤それぞれのカードに記入し、意見交換していききました。

《意見の例》



第2回ワークショップ 2023.09.24 (日) 13:30~15:55

テーマ:まちづくり計画の方針を検討しよう!
益富地区の課題と課題解決に向けたアイデア出し!

4つの協議テーマに別れ、課題解決のための
取組アイデアをたくさん出し合いました。

《意見の例》



テーマ:まちづくり計画素案のブラッシュアップ!

まちづくり計画(基本計画)の素案をみながら、
修正点・改善点をみんなで出しました。



(ワークショップ参加団体)

21団体(順不同)

- 益富地区区長会
- 益富地区コミュニティ会議
- 益富地区スポーツ推進委員
- 益富地区高齢者クラブ
- 益富地区小学校PTA
- 益富蛍友会・水辺愛護会
- 益富ヘルスサポートリーダー
- コミュニティスクールTEAM益富
- 地域包括支援センター益富の楽園
- 益富中学校生徒
- 読み聞かせの会
- 益富地域会議
- 益富地区民生委員児童委員協議会
- 益富地区人権擁護委員
- 益富中学校育友会
- 地域学校共働本部
- 志賀町囃子・山車保存会
- 益富地区まちづくり委員会
- 市・社協福祉大学修了生
- 益富地区消防団
- 益富の20代の若者

- ・高齢者の増加
- ・お年寄りの孤立
- ・独り住まいの老人増える
- ・高齢者ばかりの街になる
- ・高齢者増加、地域活動の減退
- ・若い世代少なく高齢化
- ・高齢、ひとり暮らしが多くなる
- ・高齢者ばかりのまち
- ・高齢者の増加
- ・高齢化
- ・淋しい老人が多いのはいや
- ・一人暮らしの方が多い

- ・孤立する人・家庭が多くなる
- ・一人世帯が多くなる
- ・高齢化による自治体活動継続が困難
- ・高齢者の街となる
- ・介護サービスの需給バランスが心配
- ・高齢者がついてこられない情報格差
- ・高齢者の気軽な居場所がない
- ・高齢者しかいない

高齢者の増加
高齢者の孤立

- ・会社以外に趣味共有者が少ない

シニアの活動の場がない

- ・リタイアした男性の活躍の場がない

陸の孤島
移動が困難

- ・車がないと生活できない、困る
- ・交通の便が悪くなってくる
- ・交通アクセスが今よりも不便に
- ・車がないと身動きがとれなくなる
- ・坂道が多く、移動に不便
- ・陸の孤島(バス少、年齢上昇)
- ・高齢者が生活しにくい町
- ・バス減便またはバス廃線
- ・運転できなくなった時の不安
- ・交通への不安
- ・路線バス廃止

- ・公共交通は少なくなってほしくない
- ・陸の孤島
- ・交通機関は？免許返納多くなる
- ・運転できなくなった場合の交通の便
- ・公共交通機関廃線・減少してほしくない(高速バスがなくなった)
- ・公共交通機関がなくなること

- ・不審者、事故の心配
- ・詐欺に狙われる
- ・不審者の発生、即時伝達
- ・犯罪の起こる町
- ・子どもたちが安全に登校できなくなる
- ・事件や交通事故が増えている
- ・治安の悪化
- ・高齢者の交通事故の増加
- ・犯罪が多発している

事件・事故の心配

自然の荒廃
自然破壊の心配

- ・自然環境が荒廃してしまう
- ・自然が少なくなってしまう
- ・道や家が増、自然減ってほしくない
- ・自然がなくなること
- ・四季が感じられなくなる
- ・緑の減少(住宅の緑が駐車場に)
- ・田畑は大切な資源、残ってほしい
- ・自然環境の減少

環境悪化

ゴミや汚れが目立つまちに

- ・ゴミがあふれる町
- ・ゴミがポイ捨てされないでほしい
- ・道端のゴミや汚れが目立つ
- ・公園が汚される,花がない
- ・街の景観(環境)が悪くなる

頼る人が近所にいない

- ・障害、認知症、独居になったとき頼る人がいない

人口減少

- ・人が減ってほしくない
- ・人が出ていく、出ても戻ってくるよう
- ・世代交代ができない町

子育て世代の不安

- ・子育て世代の不安の受け皿がない

顔がわからない

- ・住んでいる人の顔がわからない
- ・皆バラバラ、隣の人もわからない
- ・地域の人の名前がわからない

若い世帯が 住みつかないまち

少子化・子どもが減る

- ・少子高齢化が進行。まちのアピール
- ・若い人が少なく
- ・子どもが少なく、居なくなってしまう
- ・子ども減少、学校等の維持管理
- ・子どもの少ない地区
- ・若い人が居ない、子どもも少ない
- ・子どもの数の減少
- ・若者が住みつかない街

- ・お寺、神社のお世話するのがいやな人

近隣関係(近所づきあいの) 希薄化

- ・近隣関係が希薄になっている、心配
- ・協力的じゃなくなってしまう
- ・他人事としてしまう近所付き合い
- ・コロナ時、人のつながり薄れ心配した続いたら困る
- ・301号による分断
- ・地区のコミュニティ少なくなって・・・
- ・近所付き合いが希薄に(防犯上も人間的にも)
- ・学校と地域の活動にかかわりがない

- ・イベントの減少
- ・活気のない町
- ・交流館等の行事に参加者少ない
- ・インドア思考重視になる

活気がない

- ・災害時に助け合えるまちづくり必要

自然災害の恐れ

- ・気候変動による自然災害(土砂崩れ・川の氾濫など)
- ・環境未整備の場所による災害

空き家が増える

- ・空き家が増えてしまう
- ・空き家が増えないでほしい
- ・施設の老朽化
- ・空き家や空き地が増える
- ・五ヶ丘、退職と同時に転出?
- ・空き家、老朽した家多くなる(ゴーストタウン化)
- ・空き家の増加
- ・空き家、空き地ばかりになる
- ・空き家が増えて治安が悪く

お店や病院の減少

- ・店、病院が少ない
- ・飲み会のお店がない、ラーメン店も
- ・周辺の買い物、お店の消滅

伝統継承が困難

- ・地域の歴史を学ぶ機会少ない
- ・歴史ある行事の担い手がいなくなる

高齢者にやさしいまち

- ・高齢者をサポートするしくみ
- ・高齢者を支えあうしくみ
- ・高齢者にやさしいまち
- ・老人にやさしいまち、居場所
- ・高齢者にやさしい、買い物
- ・高齢者バスの無料化
- ・高齢者が気軽に外出、買い物
- ・老人ホームが多い

車がなくても暮らせる

- ・車以外の移動手段
- ・車がなくても生活しやすい
- ・交流館まで巡回バスで来れる
- ・バスの本数増やして
- ・バスのフリーパス(名古屋方式)
- ・交流館行きの公共バス
- ・移動販売来てほしい
- ・送迎で買い物・用事
- ・車がなくても移動
- ・車にたよらないまち
- ・病院が近い
- ・タクシーが安く使える(病院、買い物)
- ・公共交通の維持・存続
- ・モビリティ移動のモデル地区
- ・車がなくても生活がしやすい
- ・移動手段あり、自由に行けるまち
- ・運転免許返納しなくてもよい環境

自然豊かな
まち

- ・自然を大切にする
- ・自然が豊か(今のまま)
- ・自然と共存したまち
- ・歩道に花、散歩のとき楽しめる
- ・現状の保持(自然)

誰一人取り残さない

- ・生活弱者が安心して暮らせる
- ・分断や差別、偏見がない

安心して暮らせるまち

安全なまち

- ・安全なまちづくり
- ・災害、防犯
- ・治安が良い

歩行者にやさしい

- ・ゆとりある歩道
- ・歩行者信号増えて
- ・遊歩道&道路の整備
- ・坂道に手助けの柵

事故がない

- ・交通事故がない
- ・事故がなくなる

シニアが活躍する

- ・高齢の方が活躍する場
- ・アクティブシニアの活躍
- ・シルバーの役割(登下校の安全)
- ・高齢者が働く場、機会

ホタル

- ・関心が高まる

文化・伝統を
守るまち

- ・益富の伝統を忘れない、受け継ぐ
- ・文化を大切にする
- ・伝統の継承が途切れない
- ・古瀬間のお祭りは有名になってほしい
- ・歴史ある行事、活動が続いている

助け合い 協力 おたがいさま

- ・隣近所で助け合い
- ・住民同士の協力がさらに良くなる
- ・知恵の継承、若い力が体力を補う
- ・だれか助けを呼べるまち
- ・ボランティア活動が盛んに
- ・住民が助け合い生活できる

- ・高齢、貧困、シングルの食
事の心配がない益富に

顔が見える関係

- ・みんなの顔がわかる
- ・あいさつできる地域

- ・お互いの活動を気軽に知れる
- ・気軽に声掛けできる
- ・地域を越えた住民同士のかかわり
- ・現状の保持(地区のつながり)

世代を超えた交流

- ・子どもから高齢者まで交流
- ・交流がたくさんあるまち
- ・意見交換が気軽にできる
- ・たくさんのお祭り、イベント

みんなが集まれる場
楽しめる場

- ・子どもから高齢者がともに集える場所
- ・子どもも年寄りも色々なことできる所
- ・居場所、年寄り~若者が集まって楽しく
- ・子ども、高齢者一緒に遊び交流できる
- ・集まれて楽しめる場所
- ・みんなが集まり過ごせる場所
- ・世代を超えた人が集い楽しむ公園
- ・公園の一角にドックラン
- ・異世代の交流場所(老若男女の居場所)

子育て応援

- ・子育てが楽になる、ママ応援
- ・子育てしやすい

子どもにやさしいまち

- ・小中学校に多くの子どもたち
- ・赤ちゃんにもやさしいまち
- ・子どもたちにやさしいまち
- ・子どもたちが思い切り遊べる
- ・子どもだけで遊んでも安全
- ・子どもたちが増えている
- ・子どもたちが戻ってくる
- ・若い家族が住み続ける
- ・二世帯居住
- ・若者戻り子どもが増える
- ・二世帯家族増え、子ども増
- ・若い人が住み、魅力あるまち

仲がいい

- ・年齢関係なく仲がいい
- ・みんな仲良く明るく、健康に

若い世帯が暮らすまち

世代を超えて意見交換

- ・子どもたちとの意見交換
- ・10代、20代…年代別の協議会
- ・中学生がまちづくり提案
- ・若い世代が自治区活動へ
- ・空き家・空地へ若者誘致
- ・若い世代が残って活気
- ・若い人が集まってくるまち
- ・遊び場の充実

- ・消防団員 若い子が沢山
- ・若者が住みたくなる
- ・子育て世代に魅力的なこと（オーガニック給食とか）

IT化

- ・インターネットを使ったアピール
- ・地域の連絡をインターネット化
- ・フリーWiFiスポットの設置
- ・LINE や Zoom で横のつながりを

ふれあいがあるまち

- ・井戸端会議ができる地域
- ・世代間交流の枠組みがある

農業で交流

- ・益富で農業
- ・子どもたちが無農薬・自然栽培で作物つくる

企業もまちづくり

- ・産学官連携活動（優秀な人材のつながりづくり）
- ・地元企業の雇用増

活気・にぎわいがあるまち

カフェ サロン 公園 飲み屋

- ・地域の人が集まるカフェがほしい
- ・緑や花のあるいいの場
- ・老若男女集える公園
- ・中高年の集いの場
- ・交流でコーヒーサロン
- ・送迎付きの飲み屋、麻雀

飲食店・商業施設

- ・飲食店が増えるといいなあ
- ・空き家を利用して何か
- ・コンビニなどお店が欲しい
- ・子どもたちの遊び場（ゲーセンなど）
- ・おしゃれなお店
- ・カフェができたらいいな
- ・気軽に行けるお店
- ・商店街（飲み屋）が欲しい
- ・スーパー、商店の維持、継続

益富の名物

- ・何か産業、名物がうまると…、

愛着ある まち

- ・自分の地域を愛せる

健康で元気な まち

- ・ウォーキング、今のまま減らないで
- ・笑顔が絶えない、元気なまちに
- ・豊田市一に健康な人が多いまちに
- ・散歩しやすい道、健康のためのウォーキング

資料3 益富地区まちづくり計画策定に向けたワークショップ 参加者名簿

(敬称略)

No	所属(団体名)	氏名 (自治区)	氏名 (自治区)	氏名 (自治区)	氏名 (自治区)	人数
1	益富地区区長会	鶴田 政勝 (志賀町)	大石 茂則 (泉町)	廣嶋 浩 (五ヶ丘第4)	森本 泰崇 (五ヶ丘第7)	4
2	益富地域会議	山田 秀明 (古瀬間)	山内 日出美 (古瀬間グリーンパーク)			2
3	益富地区 コミュニティ会議	神谷 孝一 (大見)				1
4	益富地区 民生委員児童委員協議会	二瓶 洋子 (志賀ニュータウン)	松田 恵子 (志賀町)	高橋 千津子 (五ヶ丘第1)		3
5	益富地区 スポーツ推進委員	長瀬 一郎 (五ヶ丘第4)				1
6	益富地区人権擁護委員	星田 恵子 (志賀ニュータウン)				1
7	益富地区高齢者クラブ	中根 繁 (五ヶ丘第1)	伊井 孝子 (志賀ニュータウン)			2
8	益富中学校育友会	柴田 栄作 (五ヶ丘第8)	小林 真一郎 (古瀬間グリーンパーク)			2
9	益富地区小学校PTA	足立 尚之 (志賀ニュータウン)	鈴木 孝子 (五ヶ丘第1)	福田 由理 (五ヶ丘第7)		3
10	地域学校共働本部	田口 英夫 (五ヶ丘第2)				1
11	益富蛍友会・ 水辺愛護会	新開 宏明 (五ヶ丘第5)				1
12	志賀町 囃子・山車保存会	蟹 豊市 (志賀町)				1
13	益富ヘルスサポート リーダー	鈴木 勲 (五ヶ丘第3)	石橋 道子 (五ヶ丘第4)			2
14	益富地区 まちづくり委員会	大塚 悦子 (志賀ニュータウン)	森川 知代美 (五ヶ丘第1)	松岡 章雄 (五ヶ丘第1)		3
15	コミュニティスクール TEAM益富	山形 晃司 (古瀬間グリーンパーク)	杉山 宮子 (五ヶ丘第1)			2
16	市・社協福祉大学 修了生	森田 洋子 (志賀ニュータウン)	内田 直子 (五ヶ丘第5)			2
17	地域包括支援センター 益富の楽園	櫻井 裕子 (地域包括支援センター)	北山 智子 (地域包括支援センター)			2
18	益富地区消防団	船木 直雄 (五ヶ丘第1)				1
19	益富中学校生徒	鈴木 希維 (大見)	信川 苺花 (志賀町)	神谷 優太 (大見)	大家 瑞希 (五ヶ丘第3)	4
20	益富の20代の若者	岩下 晟也 (志賀ニュータウン)	梅村 哲平 (泉町)			2
21	読み聞かせの会	柴田 佳代子 (大見)	宮地 由紀恵 (五ヶ丘第1)	元持 千恵子 (五ヶ丘第2)		3
計						43

資料4 益富地区まちづくり推進協議会 委員名簿

【委員】

(敬称略)

No	役職	氏名(自治区)	備考(役職)
1	委員長	古川 利孝 (大見)	
2	副委員長	高村 伸一 (五ヶ丘第8)	自治区長
3	書記	田中 一弘 (五ヶ丘第7)	
4	会計	榎木 繁 (五ヶ丘第4)	
5	委員	高木 幹夫 (志賀町)	
6	委員	伊東 康博 (五ヶ丘第2)	地域会議委員
7	委員	政池 裕三 (五ヶ丘第3)	地域会議委員
8	委員	田中 強 (泉町)	地域会議委員
9	委員	梅木 貴仁 (古瀬間グリーンパーク)	地域会議委員
10	委員	縦木 輝美 (五ヶ丘第1)	
11	委員	久米 鏡子 (五ヶ丘第1)	
12	委員	小川 隆 (大見)	

【益富交流館(事務局)】

No	役職	氏名	備考(役職)
1	益富 交流館長	寺澤 好之	益富地区まちづくり推進協議会事務局

令和6年(2024年)3月時点



本計画は豊田市ホームページでもご覧いただけます。

<https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/jichiku/1036902/yosanteian/1005059.html>

令和5年度 地域課題解決事業

益富地区まちづくり計画 基本計画

計画策定	益富地区まちづくり推進協議会	発行	豊田市 地域振興部 高橋支所
問合せ	事務局:益富交流館	問合せ	地域振興担当
連絡先	〒471-0802 豊田市志賀町稔台30	連絡先	〒471-0014 豊田市東山町2-1-1
T E L	0565-80-3520	T E L	0565-80-0077
F A X	0565-80-3530	F A X	0565-80-0092
E-mail	ph-masutomi@city.toyota.aichi.jp	E-mail	takahashi-shisyo@city.toyota.aichi.jp